

平成28年度第1回精華町社会教育委員会議 会議録

■日時

平成28年4月11日（月）午後1時30分から午後3時まで

■場所

精華町立図書館1階集会室

■出席委員

- ・清水 眞理子 ・田中 智美 ・上村 卓三 ・白畑 丈子 ・高鍋 房美
- ・福味 眞樹紅 ・吉川 博文 ・石井 好昭 ・尾崎 麻由美 ・谷 譲二

■出席事務局職員

- ・教育長：太田 信之 ・教育部長：岩崎 裕之
- ・教育委員会教育部生涯学習課長：仲村 大
- ・教育委員会教育部生涯学習課社会教育係長：清田 武宏

■傍聴者

なし

■内容

1 開会

2 平成28・29年度社会教育委員委嘱状の交付

太田教育長より10名の委員に対し、委嘱状を交付。

3 教育長あいさつ

太田教育長

- 新年度が始まり、新たな委員を含め11名の方に社会教育委員の委嘱をさ

せていただいた。

- 平成26年度、27年度の前回の任期においては、教育委員会に対する提言をいただいた。
- 新たな任期を迎え、今後も引き続き、社会教育行政の課題解決に向け積極的な活動を展開いただきたい。
- 昨年度、教育委員会では教育大綱を策定した。「子どもを守る町宣言」を改めて見直すもので、その想いを継承し、この大綱に基づき、今後の教育のまちづくりを進めていきたい。
- 教育委員会の新たな取り組みとして、教育支援室を新設し、指導主事を1名増員した。学校との円滑な調整、保護者との細かなやりとりを進めていきたい。

4 議事

(1) 委員長、副委員長の選出について

清水委員

- 前期は教育委員会に対する提言を行い、その委員が変わらず今期も務めることとなる。前期に続く体制（委員長：田中委員、副委員長：吉川委員）を継続してはどうか。

田中委員

- 引き受けることで同意します。

吉川委員

- 引き受けることで同意します。
⇒反対意見等、その他特記事項なし。提案どおり決定。

(2) 各種委員の選任について

田中委員長

- 就任依頼のあった役職については、次第に記載のとおりである。それぞれの委員を選出するにあたり、事務局よりおおまかに説明願いたい。

事務局

- 「精華町地域で子どもを育てる連絡協議会」は、庁内外の子育て関連団体で構成するもので、会議を通して情報交換、情報共有を図るものである。
- 「精華町子ども祭り実行委員会」は、子ども祭りの開催に係る計画の審議のほか、当日の運営の中心スタッフとして従事いただくものである。
- 「精華町明るい選挙推進協議会」は、選挙が適正に行われるよう各種広報や啓発事業を実施するものである。
- 「精華町教育委員会所管施設指定管理者評価委員会」は、指定管理者に

よる管理運営を行っている、むくのきセンター等体育施設の業務実績を評価するために設置するものである。

⇒委員の互選により下記のとおり決定。

- ◆精華町地域で子どもを育てる連絡協議会委員：田中委員長
- ◆精華町子ども祭り実行委員会委員：福味委員
- ◆精華町明るい選挙推進協議会委員：清水委員
- ◆精華町教育委員会所管施設評価委員会委員：吉川副委員長

(3) 今期の社会教育委員会の取り組みについて

事務局

- 今年度の研究大会や研修会の開催日程や会場については、5月に開催される山城地方社会教育委員連絡協議会理事会にて決定される。現時点では、あくまでも予定ということで確認されたい。
- 京都府及び山城地方の社会教育委員連絡協議会総会が、6月に開催される。
- 研修機会としては、9月の近畿地区社会教育研究大会をはじめ、11月には京都府の研究大会、平成29年1月には山城地方の研修会が予定されている。
- 社会教育委員として参加いただく町の年中行事においては、例年と同程度の内容が予定されている。

田中委員長

- 研修機会や年中行事へは、日程確定後、改めて提示いただきたい。全ての機会に積極的に参加できるよう調整を図る。
- 前期には教育委員会に対する提言を行った。提言書の提出に終わるのではなく、何らかの方法で進捗管理を進めたいと考える。
- 教育委員会での取り組みだけでなく、首長部局の取り組みについても情報を把握する必要がある。

事務局

- 提言いただいた内容は、他課の取り組みを含むものである。予算や決算などの節目に合わせ、取り組み状況を集約し、委員の皆さまにも報告していきたい。

福味委員

- 数年前、教育委員会で人材バンクを創設した経過があるように記憶している。
- まなび体験教室、スクールヘルパーなど、ボランティアの固定化を解消するため、人材バンクの取り組みを進めてはどうか。

事務局

- 教育委員会では整理ができていない。ボランティア人材の整理は全庁的

に進めることも必要と考えるが、現時点では各課が個別に把握している状況にある。

田中委員長

- ボランティアの活躍なくして、行政運営も進められない状況になっている。有効に活用できるよう検討を進めてもらいたい。

谷委員

- スクールヘルパーに登録された方に連絡をとるため、その方の電話番号等の情報について問い合わせたところ、個人情報の保護を理由に拒否されたと聞いたことがある。
- ボランティアとして登録している方の情報の取り扱いについて、一定整理する必要がある。個人情報の保護を理由に活動が停滞しては意味がない。

事務局

- ボランティアへの登録時に、登録内容の活用について、本人に了解を得るなど事前に調整しておくことは可能と考える。今後の参考にしていきたい。

高鍋委員

- ボランティア経験のある方々に伺ったところ、参加する初日が最も不安を感じるようである。業務についていけるかどうか、うまく人間関係を築けるかどうか、などの不安を抱く方が多いようである。
- 継続的ではなく、行事のお手伝いなど、一日だけのボランティア業務などの募集を行ってはどうか。
- とにかく一度参加してみることが、新たな人材の発掘や、ボランティア同士のつながりを育むのに最も効果的と考える。

吉川副委員長

- 各学校では、図書の読み聞かせや環境整備など、学校支援活動に携わるボランティアが多く存在している。
- 名簿を整理し、まなび体験教室など、十分なボランティアが確保できていない事業へも参加いただけるよう検討してはどうか。
- ボランティアの高齢化が進んでいる。ボランティア活動が盛んな一方、現時点から新たな人材の確保を検討していく必要がある。

事務局

- 公共的人材の育成は、町の総合計画にも謳われている。今後の重要な取り組みとして、具体的な方法も含め町長部局とともに研究していきたい。

高鍋委員

- 新たな人材の一例として、地域住民に限るのではなく、学生などにも積極的に呼びかけを行ってはどうか。若年層の体験、気付きの機会になるのではないかと。

田中委員長

- 地域住民に限らない一例として、企業との協働も考えられる。

事務局

- 多くの企業に立地していただいているが、継続的なボランティア活動に対する協働や支援をお願いしている状況にはない。
- 個々の企業や企業共同体からの支援は、各事業ごとに賛同を得、協力いただいているところである。

福味委員

- 新規立地が進む企業等への視察などを検討してはどうか。子ども祭りに対する支援の一環として企業等に提案してはどうか。

事務局

- 内容によっては、快く引き受けていただける企業等もあるように考える。公共的人材の育成の一環として、企業等との調整も進めていきたい。

(4) その他

特記事項なし。

(5) 次回委員会議

平成28年5月23日（月）13時30分～

5 閉会